https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

四肢痛症候群

版 2016

9.大腿骨頭すべり症（SCFE）

9.1どんな病気ですか？

大腿骨頭の位置が、成長板を介してずれている状態で、原因は不明です。成長板とは大腿骨頭の骨組織に挟まれた薄い軟骨組織で、骨の最も弱い部位であり、また骨を成長させる部位です。成長板自身が鉱質化されて骨化すれば、骨の成長は停止します。

9.2頻度は？

稀な病気で、子ども10万人に3～10人に発症します。思春期の男子に多く、その発症には肥満が影響しているようです。

9.3主な症状は？

主要な症状は、腰の可動性の減少を伴った跛行と腰痛です。痛みは大腿の上部2/3の部分と下部1/3の部分にみられ、運動で悪化します。両側性は15%です。

9.4診断は？

特徴的な身体所見は腰の可動域減少です。
診断は股関節のレントゲン写真によって確認されます。

9.5治療は？

整形外科的な緊急疾患で、大腿骨頭が元の位置を保つようピンを挿入する手術を必要とします。

9.6予後は？

診断までの時間がどの程度かかったかと、すべりの程度によって異なります。